

幕罪略

單

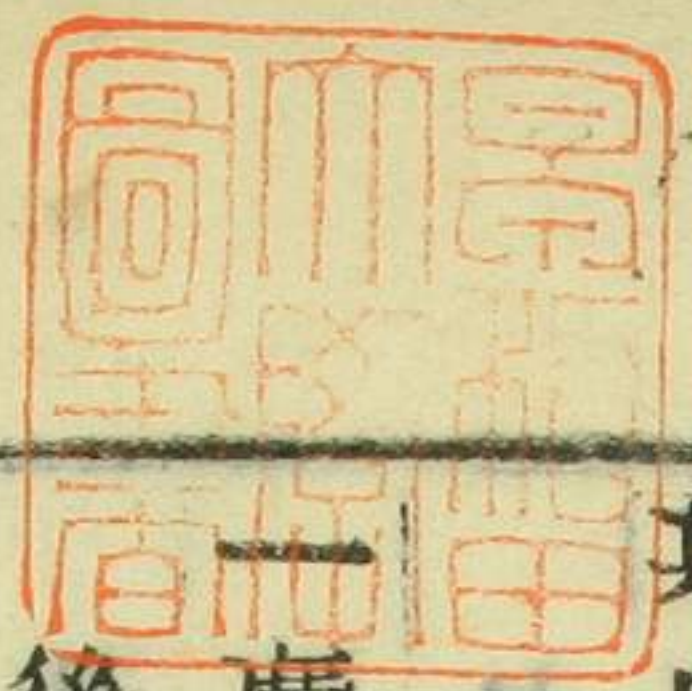
伊 5
2962



此書誰人ノ作ナルヲ知ラスト雖幕
罪ノ大較ヨク其當ヲ得タリ抑徳川
氏ノ罪状ヲ細カニ搜索スレハ實枚
舉ニ違アラス然ルヲ嘉永癸丑外夷
猖獗爾來ノ失策ヲ以テ其非ヲ舉ケ
癸丑以前ノ罪ヲ知ラス却テ其政体
ヲ慕フ者世ニ多々ナルハ彼カ權謀
ニ欺カレタル也斯ル蠢愚ノ徒ヲ驚
カサンカ爲ニ此一冊ヲ活板ニモノ
シ世上ニ示ス者也
大江建



幕罪畧



一慶長年中家康ヨリ大坂追討之院宣ヲ
後陽成天皇へ奉願シテ御免許ナク其
子細ハ秀頼コソ奉對天朝聊ノ罪ナシ
又家康ト秀頼トハ宅從ノ儀且縁邊ノ中
ナレハ左様ノ筋ナキ企ハ不宜旨 仰出
サレケルニ家康殊ノ外怒テ 仙洞ニ
ハ秀頼ニ 御心ヲ寄セ給フナレハ大望
ノ妨トナラム先大坂ノ前ニ 仙洞ヲ

隱岐國ニ移シ奉ラムト彌評議一決ニ及
ハムトセシ所南光坊ナト諫メテ此事止
ミ又此事ノ北條足利ノ例ヲ行フテハ子
孫斷滅セン事ヲ恐レテ也

一此後家康參 内シテ 禁中諸法度ト云
條目ヲ定メタリ 朝廷ニハ素ヨリ式令
格律ノ御定メアルヲ武臣ノ身トシテ
朝憲ヲ亂レ 朝威ヲ輕シメ臣權ヲ重フ
セン爲ニ三公ハ親王ヲ下ニスルノ條ヲ
立テ已ハ世々大臣ノ任ニ居ル事ヲ定メ
タリ且豐臣公ハ天下ヲ一統セラレタル
功アリ其實ハ 皇胤ノ人ナルニ依テ關
白職ニ任セラレタルナリ去ハ此時賴朝
己來押領セシ天下ヲ悉ク 朝廷ニ返納
シ奉リ 獻慮ヲ伺ヒ大坂ヲ執ラレタ
ルナリ然ルヲ家康ノ言ニ秀吉卑賤ヨリ
出テ關白ニ任シタルハ武威ニ誇リテナ
リ扨ト云事ヲ口實トシタレド自ラ卑賤
ヨリ出テ親王關白ノ上ニ居リ天下ニ何
ノ功モナク 天朝ヨリ御任シ有シニモ

非サルニ天下ヲ押領シ私ニ諸侯陪臣等
ニ領地ヲ與ヘシハ何事ソヤ豐公ノ皇
胤ニシテ其任ニ在テ其任ヲ行ヘルト家
康ノ其任ニ非スシテ天下ヲ私シ諸人ヲ
欺キント何レヲ以テ是ナリトシ何レヲ
以テ非ナリトセン有志ノ人辨知セス
ハ有ヘカラス

此人ノ駿河ニ於テ古書ヲ集メシモ
朝廷再興ノ爲ニアラス自カラ朝廷
ノ事ヲセントノ企ナル事前後ヲ考ヘ

テ知ルヘシ

一家康歿シテ後ハ天下古今無雙ノ廟ヲ立
テ剎ヘ勅使ヲ下シ御代々々ノ御
陵ヲハ産略ニナシ奉ル事

一皇胤ヲ減セントシテ親王諸王方ヲ法躰
トナシ奉ル事

一官家ニハ領地ヲ任セス且皇側ヲ守護
シ奉ルハ兵器ニアラスシテハ叶ハサル
ヲ官家人兵器ヲ廢シ朝廷ヲ弱ラシメ
奉ル事

一官位ハ至テ重キ事ナルニ武家ノ五位ハ
堂上ノ大納言ニ准ス抔ト其外モ其振合
ニ定メタル不埒ノ事

一狹小ナル 禁中ニ 天皇ヲ禁錮シ奉
リ二百余年 行華モ無之事

一關白職ヲモ關東ニテ定ムルモ同様ノ事
一傳奏御役 仰セ蒙ラル、ノ日 朝廷ノ
機密ハ關東へ洩シ關東ノ事件ハ 朝廷
へ洩スマシキ誓文ヲ請取ル事

一後水尾天皇ハ 皇子數多クハセシニ強

テ秀忠ノ女東福門院ノ生ミ奉リシ 皇

女 明正天皇ヲ御位ニ付ケ奉リシ事

一親王一ト柱ヲ人質トシテ東叡山ニ置キ
奉リ其上己カ祖廟ヲ君上ノ御統トマシ

マス君ノ親王ニ祭祀ヒシムル事

一東照權現ノ祠ヲ 仙洞御所へ建タル

ヲ 後光明天皇逆鱗マシ、破却シ

給ヒタルヲ不快ニ思ヒ承應三年ニ獻毒
シ奉ル事

一寛永年中秀忠家光上京ノ節堂上方ヲ吾

臣下ノ如ク扱ヒ 天顔ヲ拜スルニ至テ
自ラ親王關白大臣ノ上座ニ有テ

天盃ヲ賜リシ時 天酌ヲ願シ不埒ノ事

一正徳年中皇女八十宮ヲ家繼へ配セム事

ヲ暴願セリ勢ヒ止夏ヲ得ス 勅許有シ

カ 神皇許シ給ハス東下シ給ハサル内

ニ家繼卒セリ

一代々上京モセス居ナカラ宦位ヲ蒙ムル

事

一天下ノ政事ハ御舊典ニ因循シテ

叡慮ヲ伺ヒ取計フヘキ事ナルニ國政ヲ

私ニ取計フ事

頼朝尊氏カ如キ賊モ皇女ヲ申シ下シ妻

トセムトノ望ハナカリシヲ徳川氏ニ於

テ既ニ斯ノ如キ事

朝廷へ言上ノ事ヲ京都へ被仰遣云々ト

書テ天下ニ布告セル事往々ニ及ヘリ上

下ノ大倫ヲ亂ル不届ノ事

神國ノ神民ヲ胡佛ノ宗門ニ墜シ入レ佛

國同様ニナシタル事

一自己ノ實名ノ文字ハ天下中人名ニ用ル
事ヲ禁シナカラ無上至尊ノ

天照皇大神ノ照ノ字ヲ犯シ東照宮ト稱
スル不埒ノ事

右二十ヶ條ハ幕罪中ノ千カ一ヲ舉タル
而已其委シキ事ハ幕罪錄及ヒ夢物語等
以可見矣

文久五年於京師東山寓記之

下野國草莽

無名氏

